1999

（平成11年）

理事長 吉岡　敏正

1月

京都会議
第1回定時総会・例会「新入会員入会式」「年賀親睦会」（東京第一ホテル松山）

2月

例会「もっと身近な環境について考えよう～環境啓発体験学習"俳画で環境理解"～」（本町会館）

3月

例会「みんなで考えよう堀之内」（本町会館））

4月

松山春まつり
公式訪問例会「企業体質強化とコンピューター」（テクノプラザ愛媛）
「いきいき子育て」講演会

5月

愛媛ブロックスポーツ交流大会（宇和島）
第12回わんぱく相撲まつやま大会
環境セミナープログラム（ドイツ・フライブルク）
公開例会「架けよう命の架け橋」（本町会館）
第18回全国城下町シンポジウム岸和田大会
坊っちゃん大使第10号　熊本　辰視氏　任命

6月

第29回愛媛ブロック会員大会（新居浜）
例会「句会ライブ in JC 2」（本町会館）
第5回ゴミゼロフェスタ'99
青年会議所・自衛隊交流ソフトボール大会
坊っちゃん大使第11号　岩田　知也氏　任命
四国地区協議会「GTS」（バヌアツ）

7月

家族例会（北条市大浦海岸）
サマーコンファレンス
第15回わんぱく相撲全国大会

8月

松山JC創立記念パーティー
松山まつり
第2回俳句甲子園
例会「まつやまJC"エコアップ"へのすすめ　できることからやればいい」（コミュニティセンター）
どんぐりの家上映会（さくら小学校）
四国地区会員大会（今治）

9月

第16回まつやま市民シンポジウム
例会「まつやままちづくりセンターホームページ"マリネット"誕生!」（コミュニティセンター）

10月

第48回日本JC全国会員大会（山形）
会員開発セミナー
例会「悩める子供たちの声が聞こえますか?」（コミュニティセンター）

11月

第2回定時総会・例会「2000年度理事長紹介」（松山ワシントンホテルプラザ）

12月

例会「卒業式」・忘年会（松山全日空ホテル）
第7回松山ライトアップ事業

▲第1回定時総会・1月例会

▲第12回わんぱく相撲まつやま大会

▲5月公開例会

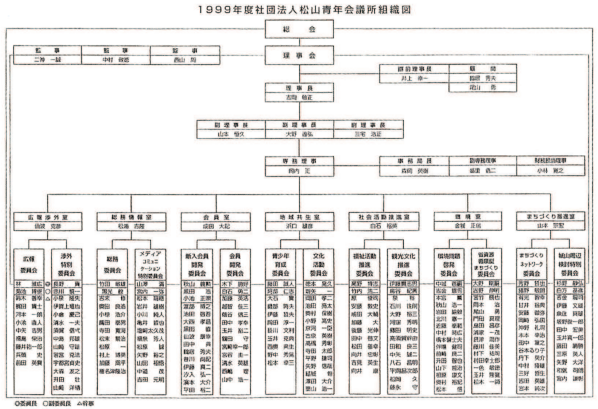
▲家族例会

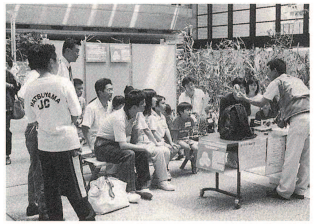
1999年　松山市の動き

2月　松山環状線全線開通
5月　瀬戸内しまなみ海道開通
10月　中核市指定政令の公布
11月　人口が47万人を突破

愛と絆（ネットワーク）で築こう明日のまつやまを

▲まつやままちづくりセンターホームページ"マリネット"誕生





▲ゴミゼロフェスタ'99

▲全国大会に集まったメンバー

▲自衛隊交流ソフトボール大会

▲どんぐりの家上映会（さくら小学校）

▲第2回俳句甲子園

▲第16回まつやま市民シンポジウム

社団法人松山青年会議所1999年度理事長所信

社団法人松山青年会議所
吉岡 敏正

はじめに

1999年、今まさに 21 世紀を迎えようとしています。我々が暮らすまつ やまも瀬戸内三橋時代となり「激変の時代」を迎えます。「激変の時代」 そう考えて周りを見てみると、今マイナスの話ばかりがあふれています。 経済しかり、環境しかり、教育しかりです。そういう時代を少しでも良くしようと考えた時、我々は幸いにも青年会議所という組織に属してい ます。青年会議所活動を通じて時代をプラスに変えていこうではありま せんか。より良い時代を我々の為、次代を担う子供たちの為に。
私は青年会議所の持つ能力やアイデアにはまだまだすばらしい可能性があると信じています。

スローガン

愛と絆（ネットワーク）で築こう明日のまつやまを

三信条に基づいたJC活動

人の痛みのわかる、愛ある人づくり

青年会議所に入会した目的はいったい何なんだろう？ 人によってそ れぞれ目的は違うと思います。

青年会議所の中で、我々は仕事では経験したこともない数々の活動を 行います。利害関係もありませんし、雇用関係もありません。皆平等の中で一人一人がリーダーシップを発揮して組織の中で活動しています。そういう活動の中で、鍛えられ、人との接し方や、思いやりを学びます。 そして その経験をつんだ中で人としての資質の向上を得ることができるわけです。この資質の向上こそが青年会議所活動のもっとも価値のあるところではないでしょうか。

人を信じ、自分を信じる。人を愛し、人から愛される。そして、当たり前のことを当たり前に問い掛けることのできる社会。人の痛みを自分のこととして考えられる（共生）社会こそが今求められているのではないでしょうか。

その JC の活動の原点である三信条「奉仕、修練、友情」にたち還り、一人一人のメンバーが、人に対する思いやりを持って活動できる青年会議所を目指していきたいと考えます。志があれば誰でもが参加できる JC、魅力のある理事長・委員長。本当の意味での三信条を実践できる JC を目指して。少しずつ変えていくじゃあなくって、少しは必ず変えたいと考えます。

ネットワーク組織としてのJC

一人では出来ない。点から面へ広げていこう

青年会議所とは「全国をベースにネットワーク化されたまちづくりの情報を蓄積し、行政や団体に発信できる組織」と考えます。つまり、人ではできない事が全困の仲間と共に発信できるすばらしい

組織です。しかし、今そのネットワークが本当に生かされているでしょうか？　日本 JC、他ロム、行政、他団体とのネットワークはどうでしょう。また、松山青年会議所内部のネットワークはどうでしょう。これらついてもう一度見直してみるべきだと考えます。もちろんネットワークを構築するためにはまず自らの意見を持ち発信していく事が大切なのは言うまでもありません。その為には時間や体力も必要です。そして、点から面への活動にしていく為にはネットワークが必要だと考えます。未来に向けて、市民が主役となり、共に生き、共に考え、共に創る夢の実現に向けて、 人と人・人と地域のネットワ ー クを生かしたパートナー シップの構築を推進していきたいと考えます。

時代に則した事業

負担感を責任感に、そして自分自身の為に

最近メンバーの間で負担感という言葉をよく耳にします。事業が多すぎる、参加要請が多すぎるなどです。でも本当にそうなんでしょうか？　当然、やみくもに事業だ行動だということではなく、 ビジョンを見据えて選択しなければ回り道にもなり、負担となるでしょう。
また、目的と手段をはき違えたような現象が起こらないようにしっかりとした計画性を持ってほしいと思います。決して、事業をする事自体が目的となってはならないと考えます。

しかしながら、松山青年会議所も創立以来46年を迎え、この年月の間諸先輩方が数多くの活動、事業を通じてまちづくりを行ってくださいました。その歴史に支えられて現在の松山青年会議所があるというのも現実です。堀之内の堀でさえ、守らなければ既に埋め立てられていたことでしょう。やはり歴史の底支えがあって今があることは忘れてはいけません。

そういう経緯をふまえた上で前向きに事業を見直していくべきだと考えます。そして、その事業で得られた経験が、やがては自分の為になると信じます。しいてはその経験が社会を支えて行く若者としての資質向上に繋がると思います。

組織の活性化

創造発信のできる青年会議所を目指して

内向きの活動ではない、外に向かって創造発信のできる松山胃年会議所を目指したいと考えます。

一人一人が主役となって、わが事意識を持って活動を行い、社会の大きな変化の中で、自分は何をすべきかという意識を持って活動して行くべきだと考えます。

女性会員の拡大については本年も継続して取り組んでいきたいと考えます。女性が入れる組織、入りたがる組織にしたい。いつまでも男性ばかりの特殊な集団では駄目ではないか？

他の社会活動をしている組織には数多くの女性が参加しているのになぜJCには少ないのか？考えてみる必要があると思います。本年入会された女性会員は実に生き生きと活動しているように見受けられます。そして、これからはそういう生き生きとした女性がもっと活躍できるＪＣ であってほしいと考えます。今後女性の力を取り入れていかないと組織の活性化ははかれないのではないでしょうか。

また、理事会、例会の運営についてももっと有意義なものにしていこうと考えます。

本来理事会というのは、松山育年会議所の方向性を決定する大切な決議機関であります。 しかしその大切な時間があまり有効に使われていないように感じられます。もっと事前の資料閲覧ができるようになどして、運営の効率化を行い松山青年会議所の夢・未来を語れる場としたいと考えます。

そして、例会についても月に 回会員全員が集まる責重な会としての重み、重要さを生かした運営としたいと思います。

その他いろいろな事柄について見直しを行ってみたいと考えます。また見直しを行っていく上でメンバー一人一人の声を反映していきたいと考えます。語り合えるJC、行動できるJCを目指して。

青年らしく明るい未来を築いていくのが育年会議所の本来の姿であると信じます。